

## ■今月のポイント ～単収・食味UPを目指して～

- ① 葉もち対策：取り置き苗を必ず処分しましょう。
- ② 水管理：天候に応じた水管理で、早期に有効分げつを確保し中干しを実施しましょう。
- ③ 除草剤：除草剤はラベルの使用法に基づき適正に使用しましょう。
- ④ カメムシ対策：こまめな草刈りと本田の雑草防除によりカメムシの発生密度を下げましょう。

### 生育状況

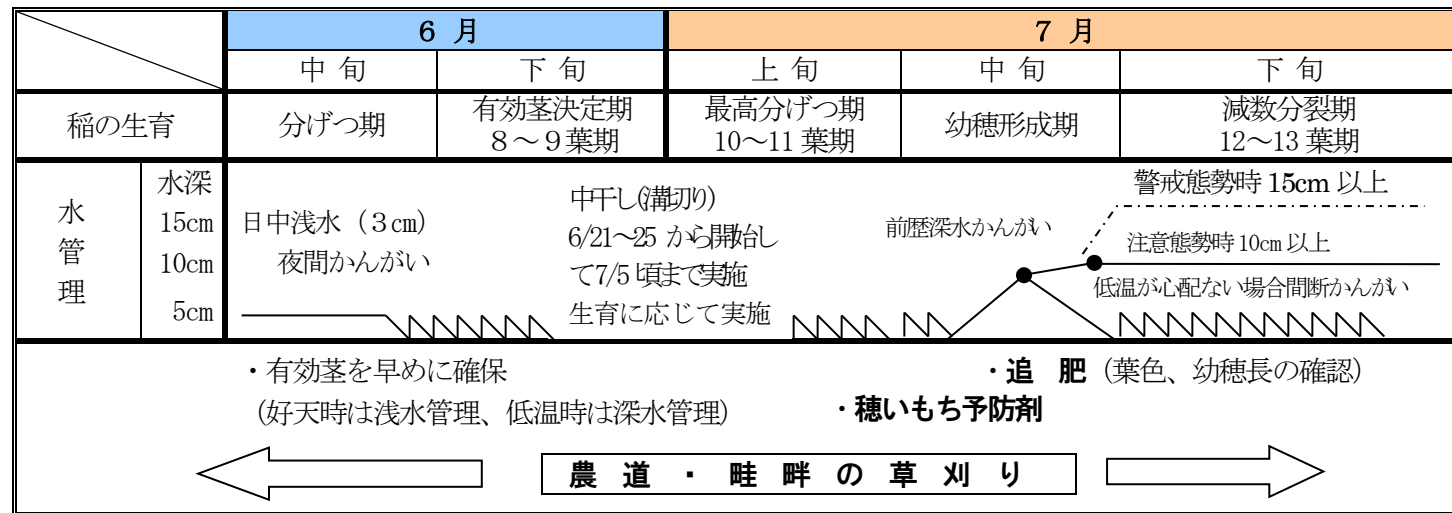
田植えのスタートは例年より早い傾向となり、期間を通して風の強い日が続き、5月上旬頃に植えた苗を中心に植え傷みが広く見られました。現在は回復し生育は順調に進んでおり、6月5日の生育調査では、平年並に生育しております。

\*平年の梅雨入り 6/15 頃、平年の梅雨明け 7/28 頃です。(昨年梅雨入り 6/9、梅雨明け 7/22)

展示圃 生育調査結果 ( ) は平年値 展示圃の田植日平均 5/11

	草丈	茎数	葉数	平年比
ひとめぼれ	22.8cm (24.9cm)	8.1本 (8.2本)	5.9葉 (5.9葉)	±0.0葉
ヒメノモチ	17.3cm (22.0cm)	5.2本 (6.6本)	4.2葉 (5.2葉)	-1.0葉

### 今後のスケジュール



ポイント① 葉もち対策：取り置き苗を必ず処分しましょう！



水田内、畦畔等に苗がある場合は、大至急 土に埋めて下さい

→ 葉もちの発生源となります！！

- ① 取り置き苗は、必ず土中に埋没して処分しましょう。  
 ※ 畦畔に上げたり裏返しても降雨があると枯れないため、いもちの発生源になることがあります。
- ② 水田をよく観察・巡回し、早期発見・早期防除に努めましょう。
- ③ 取り置き苗で発病を確認したらその圃場及び周辺圃場を観察し、本田発生があった場合は、薬剤による茎葉散布を実施しましょう。茎葉散布剤を使用した場合、特別栽培米から外れますが(ふるさと純情米となります)、発病株を発見した場合は防除を最優先としましょう。

ポイント② 水管理：天候に応じた水管理で、早期に有効分げつを確保し中干しを実施しましょう！

水稻の安定生産に向けた第一歩は、早期に有効分げつ(穂をつける茎)を確保する事がポイントです。天候に応じたキメ細かな水管理により分げつ促進につなげましょう。



### 1. 分げつ期の水管理



天候に応じたこまめな水管理により、早期に有効分げつを確保する事が、収量アップのポイントです！

- ① 晴れや曇りの場合(気温の高い場合)  
 水深3～5cm以下の浅水管理で、分げつを促進させます。
- ② 低温の場合(気温15℃以下)  
 葉先が出る程度の深水管理で、稲体を寒さから保護します。ただし、深水管理を長時間続けると分げつは抑制され、軟弱徒長(倒伏を助長させる)となりやすいので、好天時は浅水管理が必要です。
- ③ 入水の時間  
 気温と水温の差の少ない朝夕に行います。水温の上がる日中は止水にして、水温を確保しましょう。

※ 中干しまでは、田面を露出させない水管理が基本になります。

### 2. 湧き(有害ガス)対策 ～除草機押し、水の入れ替えが効果的です～

生ワラや未熟な堆肥を施用した場合、ガスが発生し、湧き根の活力低下や表層剥離が起こります。対策として水の入替えや、除草機による中耕・ガス抜きが効果的です。土中に酸素が供給されます。

### 3. 中干し・溝切り

落水し田面を干すことにより、土中に酸素を供給し、根を活性化すると同時に無効分げつ(穂をつけない茎の発生)を抑えることを目的として行います。また、前年の作付けが大豆・麦・牧草などの場合は生育が旺盛で倒伏する恐れがあるので積極的に中干しをしましょう。

① 時期	有効分げつ確保後(6月21～25日頃、1株当たりおよそ25～30本)～幼穂形成期前(7月5日頃)までとし、田面に小さなひび割れが生じ足跡が付く程度とする。
② 溝切り	中干しにあわせて溝切りを実施する(落水後2～3日後)。溝切りの目安は10%当たり、2～4m間隔に6～8本程度。枕地部分も溝を掘り必ず水口や水尻につなげる。
<b>中干しを行う水田</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>* 水持ちの良いすぎる水田</li> <li>* 地力の高い水田、有機物、施肥量の多い水田</li> <li>* 茎数が多い、葉色が濃い水田(6月21～25日頃 25本/株以上)</li> </ul>	
<b>中干しをしなくても良い水田</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>* 水持ちの悪い水田</li> <li>* 生育の遅れている水田</li> <li>* 茎数の少ない水田(6月21～25日頃 25本/株以下)</li> </ul>	

### 4. 中干し後の水管理

- ① 中干し後の入水は、始めの2～3日間は走水程度とし、その後間断かんがいとしましょう。一度に深水にすると酸素不足となり、根に障害が生じるので注意しましょう。
- ② 7月中旬頃(幼穂形成期初期)から4～6cm程度の水深とし、その後、徐々に10cmにしましょう。
- ③ 7月下旬前後(減数分裂期)気温が17℃以下の予想される場合10cm以上、低温時(気温が17℃以下が続く場合)は15cm以上の深水としましょう。
- ④ 低温が全く心配ない場合は間断かんがい、但し、すぐに深水に出来るように対応しましょう。

**ポイント③ 中期除草剤の使用について** : 除草剤はラベルの使用方法に基づき適正に使用しましょう!

**雑草の取りこぼしがあった場合は、中期除草剤で防除しましょう。**

特別栽培米 → バサグラン（落水） 1回のみ

ふるさと純情米 → レブラス（湛水）、クリンチャーバス ME（落水）、バサグラン（落水）等、雑草発生状況に合わせて体系処理 いずれも1回

※各除草剤の効果対象雑草については、「春肥料施肥設計指導会資料予約申込書」に記載していますので、参考にしながら選択してください。

- ① レブラスの場合、湛水で散布し、散布後少なくとも3～5日間は水を移動させないようにしましょう(入水・落水・かけ流しをしない)。散布後に降雨があっても7日間は落水しないようにしましょう。
- ② クリンチャーバス ME・バサグランの場合、処理後2日以内の降雨は、効果が劣る場合があるので、晴天の時期を選んで散布するようにしましょう。
- ③ 薬剤によって使用時期等が異なりますので、適正使用を行い、早めの防除を心がけましょう。

	商品名	剤型	主な対象雑草	使用時期	10a当り使用量
湛水散布	レブラス	1* <sub>10</sub> 粒剤	水田一年生雑草、ホタルイ、オモダカ、クログワイ、シズイ等	移植後 14日～ <sup>1</sup> / <sub>10</sub> 葉期 ただし、収穫 60 日前まで	1 kg
		ジャンボ			10 個 (400g)
落水散布	クリンチャーバス ME	液剤	水田一年生雑草、ホタルイ、オモダカ、クログワイ、シズイ等	移植後 15日～ <sup>1</sup> / <sub>10</sub> 葉期 ただし、収穫 50 日前まで (落水散布又はごく浅く湛水して散布)	1000 ml (希釈水量: 70～100ℓ)
	バサグラン	粒剤	水田一年生雑草 (イネ科を除く) ホタルイ、オモダカ、クログワイ、シズイ等 ※クログワイは草丈 15 cm以下、シズイは 20 cm以下で使用	移植後 15～55 日 ただし、収穫 60 日前まで (落水散布又はごく浅く湛水して散布)	3～4kg
液剤		500～700 ml (希釈水量: 70～100ℓ)			

※雑草の発生状況を考慮し、適期に散布しましょう。

**肥培管理** (注意) 特別栽培米は、定められた肥料使用基準がありますので注意して下さい。

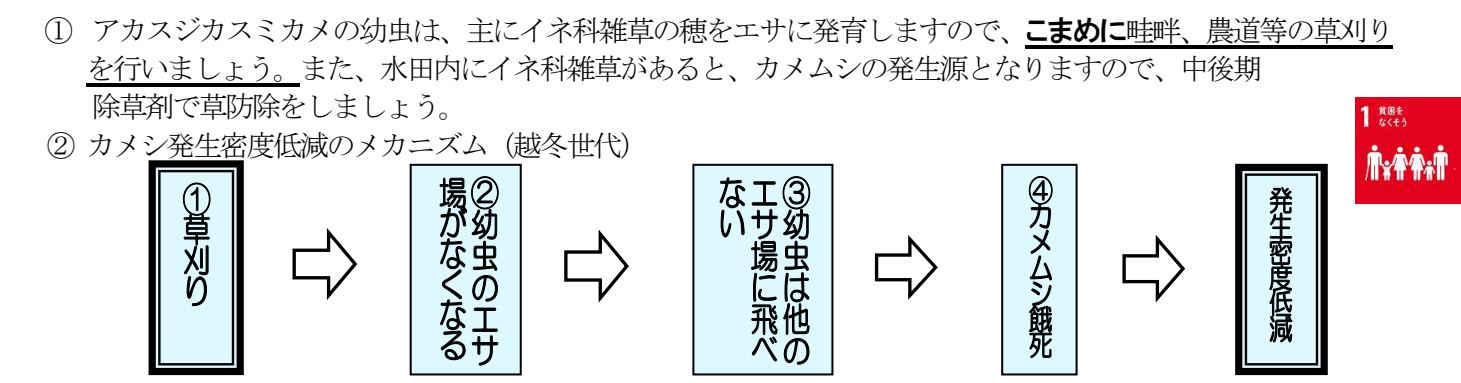
ケイ酸資材の投入により、稲体を強くし倒伏や葉いもちの発生を軽減させます。6月下旬に下記の肥料施肥をお奨めします。 ※特別栽培米でも使用できます。

施用例	6月下旬	マルチサポート1号	…… 20Kg～40Kg/10a (1～2袋)
	7月上中旬	K S K 2 8	……1.4Kg/10a (1本) ※水口施用可 (大型区画圃場で推奨)

※極端に葉色が落ちている場合等は「つなぎ肥」として窒素成分の追肥を必要とすることがありますので、営農アドバイザーにご相談下さい。

**栽培履歴(作業内容・農薬名・肥料名・散布日・使用量など)**  
・GAP チェックシートの記帳を忘れずに行いましょう!!

**ポイント④ カメムシ対策** : こまめな草刈りと本田の雑草防除でカメムシの発生密度を下げましょう!



※草刈後の畦畔草や草取後の雑草は、用水路に流れないように注意しましょう。

令和5年はカメムシ発生ほ場率が平年値より多かったことから、令和6年の越冬世代の発生量は多くなることが推測されます。そのため、出穂前までの草刈りを徹底しましょう。

**非選択性除草剤 (ラウンドアップ・バスタ等) で畦畔除草を**  
実施する場合は、ドリフトに注意しましょう!  
**稲にドリフトすると出荷・買入れが出来なくなりますので、注意しましょう。**

過去の春作業で、下記のような除草剤散布による畦畔除草の事例が報告されています。

- ・水路際まで除草剤が掛かっており、水路にも飛散している。
- ・私有地に除草剤がドリフトしており、農作物が枯れてしまっている。

畦畔には自作ほ場以外にも、共通の水路や耕作地以外の私有地等が隣接する場合があります。農薬を使用する際は、周囲の環境に配慮するとともに、他の生産者と情報交換し理解を得ることが大切です。また、飛散防止カバーを付ける、強風時は散布しない等、ドリフト防止の基本事項を徹底してください。

～令和6年産 GAP チェックシートの取り組み (6月編)～  
令和5年産の GAP チェックシート集計結果からチェック率の低い項目を毎月紹介していきます。令和6年産ではチェック欄に○がつくよう取り組んでいきましょう!

「(推奨項目) 農薬の調合用の器具は、適切なものを持っている」(64.4%)  
「(必須項目) 喫煙場所と作業場、資材置き場は異なる場所に設置されている」(64.3%)  
→必須項目は特に意識して取り組むようにしましょう。

■**水稻の栽培、農薬使用等に関するお問い合わせは…**  
「胆沢地域センター営農経済課」 47-0031  
「営農アドバイザー携帯電話」  
090-4478-9947 090-4478-9948 090-4478-9949 090-4478-9951

■**生産資材・生活資材のご注文・配達は…**  
「拠点配送センター」 0120-516-911 (フリーダイヤル)

■**生産資材等の直取り・窓口供給は…**  
「胆沢資材センター」 47-1612  
①平日営業時間 午前8時30分～午後5時まで  
②休日営業時間 6月～10月の土曜は午前営業します。  
(日曜・祝日は休業となります)  
午前8時30分～正午まで

LINE 3xアカウント

**友だち募集中**

@703kysml  
うれしい情報をLINEでお届け!

LINEにて営農情報を発信中です!  
上記QRコードからお友達登録をお願いします。